

水船桂太郎 テノールリサイタル

ピアノ：青島広志

1部

陽はすでにガンジス川から……………スカルラッティ
教会のアリア……………ストラデッラ
亡命者……………ロッシーニ
お行き 幸せな薔薇よ……………ベッリーニ
海辺にわが家を……………ドニゼッティ
薔薇……………トスティ
限りなく優雅な絵姿……………ドナウディ
郷愁……………チマーラ
朝の歌……………レオンカヴァッロ

2部

オンブラ マイ フ(ラルゴ)……………ヘンデル
「トスカ」より 星は光りぬ……………ブッチーニ
「椿姫」より 乾杯の歌……………ヴェルディ
帰れソレントへ……………デ・カルティス
忘れな草……………デ・カルティス
泣かないお前……………デ・カルティス
マリウ 愛の言葉を……………ピクシオ
グラナダ……………ララ

共演：福村友希子(Hn) 池野智香子(Cl) 中村泉(Fl) 岩井美貴(P)

浜松出身の
演奏家シリーズ XI

四季コンサート 2004

2004年7月16日(金) 6:45PM
会場：浜松市教育文化会館
主催：浜松音楽友の会

プロフィール

水船桂太郎 (テノール)

浜松市立中部中学校、信愛学園(現学芸)高等学校音楽科、国立音楽大学声楽科卒業。古屋豊、莊智世恵各氏に師事。第38回日伊声楽コンクールソ入選。バリトンとして「魔笛」「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」などモーツアルトを中心にした作品や日本オペラに数多く出演。後にテノール転向を機にイタリア・ボローニャに留学し、トリノ、ミラノ、フィレンツェなど各地でコンサートに出演。この間にW.マッテウツ氏、G.チャンネラ氏、ヨーコ・タケダ氏、中島基晴氏らに学び、スウェーデンで行われたオペラ・アカデミーオーディションに合格、優秀賞を受賞して記念コンサートにも出演した。帰国後は「椿姫」「カルメン」「ラ・ボエーム」などのオペラ、「メサイア」「カルミナ・ブランナ」「レクイエム」(モーツアルト、ベルリオーズ)などのコンサートのソロを務める。このほか日生劇場「シリーズ音楽探検隊」(青島広志氏と共に)やTV朝日「新・題名のない音楽会」などにも出演。2003年5月には「二期会週間—花形テノール7人の若侍」と銘打ったコンサートに出演。又9月には「蝶々夫人」のピンカートンで二期会オペラにデビュー。今後の活躍が注目される若手テノールである。二期会会員。

青島広志 (ピアノ)

1955年東京生まれ。作曲を中心にピアノ、指揮、解説、出演と幅広く活躍。東京芸術大学作曲科大学院修士課程を修了。修了作品のオペラ「黄金の国」を始めとして、合唱曲「マザーグースの歌」ミュージカル「11匹のネコ」などが著名。水船桂太郎の初期における発見者の一人である。現在、東京芸術大学、都留文科大学、都立芸術高校講師、東京室内歌劇場会員、今春より「新・題名のない音楽会」顧問を務めている。

水船桂太郎
テノールリサイタル



KEITARO MIZUFUNE
TENOR RECITAL

●スカルラッティ(1660~1725)／陽はすでにガンジス川から

イタリアのオペラ作曲家で、18世紀声楽様式を確立したことでも知られる。この曲はイタリア古典歌曲、歌劇《愛のまこと》で、「陽光は、はやガンジスから明るく輝きを増し」と歌われる。

●ストラデッラ(1644~1682)／教会のアリア

イタリアの作曲家で、声楽を中心にオペラなどを残した。この作品もイタリア古典歌曲で、「主よ、悩める私に憐れみを。私の祈りが届くなら厳しく私を罰しないでください」と歌う。

●ロッシーニ(1792~1868)／亡命者

19世紀イタリアの代表的作曲家。《セビリヤの理髪師》等数々のオペラや室内楽曲、声楽曲などを残した。「リグーリア海がいつもその足元を浸しているイタリアの街、そこが私の故郷なのだ」と歌う。

●ベッリーニ(1801~1835)／お行き 幸せな薔薇よ

ロッシーニ、ドニゼッティと並んで19世紀イタリアを代表するオペラ作曲家。歌劇《清教徒》等がある。「お行き、ニーチェの胸でやすらぐために、私たち二人には同じ運命が待っている」と歌う。

●ドニゼッティ(1797~1848)／海辺にわが家を

《愛の妙薬》などで親しまれているドニゼッティの歌曲集《インフラシャータの秋の暮れ》の1曲で、歌曲中最も知られている。「海の近くに、孔雀の羽で飾った家を建てたい」と歌う。

●トスティ(1846~1916)／薔薇

イタリアの人気作曲家、後年イギリス王室の声楽教師を務め、貴族にも叙せられた。「トスティ歌曲集」は世界中で親しまれている。「憐れな薔薇の花、君はあの悲しい花を誰にももったのか」という歌詞は、ロッコ・E・パリアーラ。

●ドナウディ(1879~1925)／限りなく優雅な絵姿

イタリアの作曲家で、声楽曲、室内楽曲等を残した。「昔愛した女性の限りなく優雅な絵姿、今でも話しかけている。あの素晴らしい愛の日々のように。懐かしい思い出が蘇る」という《古典様式によるアリア集》中の曲。

●チマーラ(1887~1967)／郷愁

イタリアの指揮者、ピアニスト、作曲家。レスピーギに作曲を学び、主に指揮者として活躍した。この曲は《5つの抒情詩第1集》の第2曲で詩はハイネ。「夕べに森へ行くと、疲れた私のそばにお前の繊細な姿が見える」と歌う。

●レオンカヴァッロ(1858~1919)／朝の歌

《カヴァレリア・ルスティカーナ》に並ぶヴェリズモ(現実主義)オペラの代表作、《道化師》で一躍名を知られたイタリアの作曲家。「白い衣装に包まれた夜明けが、太陽に向かって扉を開けた」と歌う。

●ヘンデル(1685~1759)／オンブラ マイ フ(ラルゴ)

《ラルゴ》としてよく親しまれている曲だが、オペラ《クセルクセス》の第1幕冒頭におけるクセルクセス王のアリアである。「この木陰ほど、美しく気持ちよいところは他にない」と歌う。

●ブッチーニ(1858~1924)／「トスカ」より 星は光りぬ

ブッチーニはヴェルディと並び称されるイタリア・オペラ作曲家の双璧。古今のオペラ名アリアのひとつで、《トスカ》第3幕、画家カヴァラトッジの処刑での辞世の詩。「星は輝いていた。けれども私の愛の夢はもはや永遠に消えてしまった」

●ヴェルディ(1813~1901)／「椿姫」より 乾杯の歌

オペラを代表する名作《椿姫》の第1幕で歌われるアリア。純朴な青年アルフレードが美しいヴィオレッタに目を奪われて即興で歌う。「酒を酌もう、美しい人が花を添える喜びの杯に、愛は杯とともに熱い口づけを受けよう」

●デ・クルティス(1875~1937)／帰れソレントへ 忘れな草 泣かないお前

クルティスはイタリアのピアニスト、作曲家。名歌手ジーリのピアノ伴奏者としても知られる。兄である詩人ジャンバティスタと多くの名カンツォーネを作曲した。《帰れソレントへ》は1904年、地元のホテルから頼まれたCMソング。世界的な大ヒットとなり、寒村だったソレントは一躍有数のリゾート地となった。プレスリーがカヴァーしたことでも知られる。「帰れよ、我を捨つるな。帰れソレントへ、帰れよ」(《忘れな草》)は名テノール、ジーリが1935年に主演した映画「忘れな草」の主題歌。1959年「春の風」でも使用された。ドメニコ・フルノ作詞。ツバメは飛び去った。甘い恋を探しに、さよならも言わないで」(《泣かないお前》)は1915年に詩人リベロ・ボヴィオが作詞、名歌手カルゾーによって歌われたセレナーデ。「今夜山々はなんて美しいのだろう。あなたはどこに、この瞳であなたをもう一度見つめたい」

●ピクシオ(1896~1978)／マリウ 愛の言葉を

ピクシオは、「マンマ」、「愛のカンツォーネ」でも知られた人気作曲家。この曲は1932年カメリーニ監督による映画「悲漢たち」の主題歌。主演のヴィットリオ・デ・シーカが「マリウ、今夜の君は何と美しいのだろう」と歌う。

●ララ(1900~1970)／グラナダ

メキシコの作曲家ララは、この《グラナダ》を1932年に作曲したが、映画「ビコーズ・ユー・ア・マイ」に取り上げられてから世界的に広まった。「夢誘う地よ、聞こえてくるあの歌、君こそ命を賭けた恋」と情熱的に歌う。